



第 298 回高知市医師会生涯教育カンファレンスのご案内

標記カンファレンスを下記の先生をお迎えして開催いたします。

日々の業務に大変お忙しいことと存じますが、何卒、多数の皆様にご参加いただきますようご案内を申し上げます。

日時：令和 7 年 11 月 27 日（木）午後 7 時

場所：総合あんしんセンター 3F 中会議室

担当：高知医療センター

発表①：「遺伝性大腸癌の拾い上げとサーベイランスについて」

高知市医療センター 消化器外科・一般外科 医長 吉岡 貴裕 先生
遺伝子解析技術の進歩やがんゲノム医療の普及に伴い、本邦における遺伝性腫瘍診療を取り巻く状況は近年大きく変化している。本邦のがん罹患数第 1 位である大腸癌においても、先天的な遺伝子バリエーションを背景とする遺伝性大腸癌が一定数含まれており、最も頻度の高い Lynch 症候群の患者数は、高知県内でも 1000 名以上と推定される。大腸癌は、遺伝を専門としない臨床医にとっても日常診療で頻繁に遭遇する疾患であり、現状の遺伝性大腸癌診療の概要を把握しておくことは重要と考えられる。本カンファレンスでは、昨年発刊された「遺伝性大腸癌診療ガイドライン」を踏まえ、遺伝性大腸癌の診断およびその後のサーベイランスなどについて概説する。

発表②：「膵嚢胞性腫瘍について」

高知医療センター 消化器外科・一般外科 医長 田淵 幹康 先生
近年、膵嚢胞は CT 画像検査の普及に伴って発見頻度が上昇しているが、そのマネジメントは多くの課題を有している。それぞれの病変により悪性化リスクは異なるため、全ての膵嚢胞を適切に病型分類することが重要である。評価は造影 CT/MRI, MRCP を基本に、ERCP・EUS±FNA により壁在結節・主膵管径・嚢胞液 CEA/アミラーゼを確認することで行う。
膵管内乳頭粘液性腫瘍 (IPMN)、粘液性嚢胞腫瘍 (MCN)、充実性偽乳頭状腫瘍 (SPN)、嚢胞性膵神経内分泌腫瘍は悪性化の可能性があるため、経過観察が必要である。他方、漿液性嚢胞腫瘍 (SCN) や仮性嚢胞などは良性である。サーベイランスの戦略は嚢胞の種類と大きさによって大きく異なり、さまざまなガイドラインがサーベイランスを推奨しているものの、それらに一貫性はない。癌化のリスクを有する嚢胞は、患者の手術耐容性に応じて切除が検討される。嚢胞のサーベイランスの問題点として、どの程度の頻度でサーベイランスを行うのか、いつサーベイランスを中止できるのか、そして医療経済的負担の大きさが挙げられる。膵嚢胞性病変の診察・治療について自験例も交えながら提示する。





第 298 回高知市医師会生涯教育カンファレンス

日 時：令和 7 年 11 月 27 日（木）午後 7 時

場 所：総合あんしんセンター 3F 中会議室

担 当：高知医療センター

発表①：「遺伝性大腸癌の拾い上げとサーベイランスについて」

消化器外科・一般外科 医長 吉岡 貴裕 先生

発表②：「膵嚢胞性腫瘍について」

消化器外科・一般外科 医長 田渕 幹康 先生

出 席 者 氏 名	職 種

所属機関名：_____

TEL：_____

FAX：_____

※申込締め切り：11 月 21 日（金）までに下記にお申込みください。

一般社団法人 高知市医師会事務局 FAX 872-7262

